

## DB 運用の点検により不確実性に備えたい

昨年3月に日銀によってマイナス金利政策が解除されて間もなく1年が経過する。この間、マイナス金利政策の解除を含めて3回の利上げが実施され、政策金利は2008年10月以来の0.5%まで引き上げられた。賃金と物価の好循環の下での「金利ある世界」の定着が近づきつつある。

もっとも、日銀の物価目標を超える高インフレの長期化や財政悪化に対する懸念などから金利上昇に拍車がかかり、国内経済にダメージを与えるリスクも取り沙汰される。

米国で発足したトランプ第2次政権の政策への警戒も必要だ。新政権を親ビジネスと捉える楽観論もあるが、米国第一主義を掲げる政策次第では予期せぬ事態が世界経済や金融市場を揺るがすことになり兼ねず、先行きは見通しにくい。

昨年、資産運用立国実現プランを受けて、DBを含むアセットオーナーの改革に向けた施策が議論され、今年1月にはDBの資産運用ガイドラインが改定された。不確実性の高い運用環境を乗り切り、加入者等の利益の確保をより強固なものとするためにも、DBにかかわる一連の改革論議を、自らの運用体制の点検と、それらの実情を踏まえた運用力の向上を図る契機としたい。

### 《目次》

- ・ (企業年金) : 「アセットオーナー・プリンシプル」と企業年金
- ・ (予算・税制) : 2025年度税制改正(主に年金とその周辺)について
- ・ (公的年金) : 次期年金改革案(調整期間の一致)を避けた場合に起きる問題